

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101488		
法人名	株式会社ライフセーバーコーポレーション		
事業所名	グループホーム ミントとやま(1F)		
所在地	青森県青森市赤坂1丁目12-11		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医師や訪問看護師との関係が良好であり、不安なく看取りケアに取り組むことができ、実績もあります。離職率が低く、長年勤務している職員と利用者は顔馴染みで良好な関係となっており、その関係のまま職員間のしっかりした団結により、最期を迎えることができる施設です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは閑静な住宅地の中に立地している。近くに公園があり、いつでも散歩して森林浴や季節の移り変わりを感じることができる環境である。医師による訪問診療や訪問看護ステーションと連携しており、利用者の急変時や看取り介護に対応できるよう整備しており、利用者が安心して最後まで住み慣れたホームで過ごすことができる体制を整備している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作成し、カンファレンス時等で振り返る機会を作り共有している。	地域密着型サービスの役割を踏まえたホーム独自の理念を作成している。職員は毎月のカンファレンスで理念の再認識を図り、年長者を敬いながら利用者一人ひとりに合わせた対応を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、町内の行事には利用者も参加し、交流を図っている。古紙回収等、可能な範囲で協力をしている。	町内会の夏祭り等の行事には、利用者も参加しているほか、幼稚園の訪問や障害者施設の移動喫茶等、日常的に地域と交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを開放し、定期的に認知症カフェを開催している。その際に悩み事等の相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の状況を報告している。各参加者から情報をいただき、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催しており、利用者の生活状況及び運営状況報告や情報交換を行っている。メンバーから意見やアドバイスをいただき、ホームのサービス向上に繋げるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事はすぐに市役所に確認している。また、地域包括支援センター職員と良好な関係を築いており、相談できる体制になっている。	会議の場で、新型コロナウイルスの対応についての情報提供やアドバイスを受けている。また、介護保険認定結果に関する事について相談をする等、行政と連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや指針を作成し、研修会を行っている。また、定期的に身体拘束廃止委員会を開催している。	身体拘束に関する指針やマニュアル、やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて書式を整備している。定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、職員は身体拘束の弊害や内容について理解しており、身体拘束を行わないという姿勢でケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを活用して内部研修を行っている。また、職員間で対応に目を配り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか研修に参加する機会はないものの、いつでも地域包括支援センターに相談できる関係を構築しており、何かあればすぐに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に時間をとって理解していただけるまで説明を行っている。また、説明後は同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内外の苦情受付窓口を入所時に説明するほか、定期的にホーム便りに掲載している。また、マニュアルに沿って速やかな解決に努めている。	玄関に投書箱の設置と苦情受付窓口を掲示している。重要事項説明書で速やかに対応する体制を明確にしており、出された意見や苦情等について検討し、対応することでより良いホーム運営に活かす体制としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	年1回、管理者が職員と個人面談を行い、様々な意見や相談に応じている。関連施設やホーム内の異動はなく、日頃から利用者と職員が馴染みの関係を築けるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会があるたびに就業規則の見直しを行っている。また、職員の意見を基に職場環境等整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに年間の目標を立ててもらっている。達成できるように研修計画を立て、研修受講の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	総会や研修等に参加し、他の施設職員と交流できる機会を作って情報交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、利用者とは必ず面談を行っている。その際に、利用者や家族、各関係者等から十分な情報をヒアリングしている。利用者が一番困っている事を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に十分に聞き取りを行っている。入所前も定期的に連絡を取り、不安感等を取り除けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いを行い、信頼関係を築きながらニーズを引き出し、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を観察し、できる事を見出し、共に支え合う家族のような立場で励ましながら良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りや電話、面会時等、利用者の状態を詳しく伝えている。家族の意見を取り入れ、共に支援するような関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人等との電話を取りついたり、面会時はゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	アセスメントや日々の利用者との関わりの中で、利用者の生活歴や交友関係を把握し、全職員が情報共有をしている。電話の取りつきや訪問時の対応を行い、馴染みの人との関係継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間関係を把握し、必要に応じて職員が介入し、良好な関係を維持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても「いつでも相談に応じる」事を伝え、必要があれば電話等でアドバイスを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で密なコミュニケーションをとり、言葉や表情等から利用者の意思を把握するよう努めている。また、家族からも情報を得ている。	アセスメントで意向や希望等を確認している。また、日々の会話や表情、行動等から思いを把握し、職員間で情報共有している。確認が困難な場合は、家族や知人から情報収集して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から十分な情報を得て、これまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の徹底した申し送りにより情報共有し、些細な事も把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活で利用者との関わりを深めるほか、家族の意向や訪問看護師の助言を基に介護計画を作成している。	利用者及び家族から意向確認したうえでカンファレンスを行い、利用者本位の具体的な介護計画を作成している。家族の意向や利用者の心身状態に変化が見られた場合は、その都度再アセスメントを行って計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録のほかに、業務日誌を用いて情報共有をしている。閲覧後は職員にサインしてもらっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族による受診同行や面会、外出の送迎等、可能な範囲で要望に柔軟に対応するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の協力を得ながら町内行事に参加する等、楽しみを見出して豊かな暮らしを送れるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係は良好であり、スムーズに受診することができている。また、十分な情報共有もできている。	月2回医師の往診と訪問看護師の訪問がある。緊急時には、協力医や訪問看護ステーションと連携しながら対応する体制となっている。受診結果は、その都度家族へ電話で報告し、共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間いつでも相談できる関係を築いている。また、医療機関ともスムーズな連携ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ行き、関係者と情報共有をしている。また、訪問看護師と連携し、早期退院に向けて話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針やマニュアルを作成し、家族に十分な時間を設けて説明している。また、全職員がマニュアルに沿って支援している。これまでの看取り経験を活かして、穏やかに最期を迎えていただくために気持ちをひとつにして取り組んでいる。	グループホーム重度化対応(看取り)指針及びマニュアルを整備しており、入所時にホームの対応を説明し、看取りに対する利用者及び家族の意向を確認している。状況変化時は、家族と協力医療機関や訪問看護ステーションと方向性について再検討を行い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を行っている。また、運営推進会議の際に避難訓練の報告をし、地域に理解と協力をしていただけるようお願いしている。	年2回、夜間想定避難訓練を利用者と共に行っている。いざというときに、近隣住民から協力が得られるように運営推進会議で働きかけている。また、災害発生に備え保存食料や飲料水、暖房器具類を常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの基本理念である「人生の大先輩である」を常に念頭に置き、声掛け時は十分に注意をしている。	職員は接遇研修を受講している。常に年長者としての利用者を敬い、言動に対し否定することなく受容的に捉え、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮しながらケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫して、利用者の意思を表現できるように努めている。また、選択する場面を設定できるよう工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や表情、言動等から、その日の状態を把握して支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時は支援をしている。また、服装は季節に合った物を選び、快適に過ごせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は個々に合わせた時間に提供している。また、介助が必要な利用者にはさりげなく隣に座り、会話をしながら食事を行っている。	利用者の食習慣に配慮して、柔軟な食事時間の設定や禁忌食、咀嚼状況に応じた食形態、代替食の提供等を行っている。また、利用者の意思や能力に応じた作業や役割を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取状態に合わせて食事形態を工夫している。また、食事量等を記録し、全職員で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者のできる事、できない事を見極め、それに合わせて、介助や声掛け、見守り等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を活用して、排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行って失禁の軽減に努めている。	利用者の排泄チェックを行い、排泄パターンに応じて事前のトイレ誘導を行っている。入所後の利用者の排泄状態を確認し、適切な排泄用品使用についてカンファレンスで検討し、見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供する等、個々に応じた対応をしている。また、訪問看護師に相談して助言を得ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入所時、家族に入浴に関するヒアリングを行い、可能な限り利用者に合わせる対応を心掛けている。また、入浴拒否があった場合は、声掛けや日にちを変える等の工夫を行っている。	週2回、利用者の希望や入浴習慣、体調に配慮して入浴支援している。また、利用者の身体状態に応じて職員2名で対応する等、負担感や安全面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のその日の体調や状況を見極め、一人ひとりに合った休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬を把握できるように、処方都度、薬の内容を業務日誌に載せて情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に聞きとりを行っている。また、利用者の様子を観察しながら、能力を発揮できるよう役割を担っていただく場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コミュニケーションの中で行きたい場所を把握するよう努めている。実現できない場合は、会話に取り入れ「いつか行ける」という希望を持っていただけるよう努めている。	気分転換できるように公園の遊歩道を散歩する等、日常的に外出の機会を設けている。また、利用者が季節感を感じられるような外出行事を企画して外出支援している。墓参り等は、家族に協力を得て行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はホームで立替して物品等を購入しているが、全職員が利用者の言動から「お金を所持したい」という気持ちを汲み取り、気持ちに寄り添うよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に対応して、家族への電話を取りつぐ支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計やエアコンを活用して、快適な環境作りを心掛けている。また、季節の花を飾って季節感を取り入れている。	リビング兼食堂には、季節の装飾や花を飾っており、大きな窓からは柔らかな光が入り、近隣の公園を眺めることで、季節の変化を感じることができる環境である。室温や湿度も快適で、利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや一人掛け椅子、テーブルの配置に気を配り、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に可能な範囲で自宅で使用していた物を持ってきていただいている。花や写真、絵等、好みを把握して居心地の良い空間を提供できるよう努めている。	入所時に、家族へ利用者の愛用品や馴染みの物の持ち込みを働きかけており、利用者の意向を確認しながら居室作りを行っている。利用者の身体状況に応じて、介護用ベッドを配置する等、安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、随所に手すりを設置している。また、常に利用者のADLの見直しを行い、状態に合わせた対応をしながら安全に過ごせるように努めている。		